

# 博 士 論 文 概 要

## 論 文 題 目

植民地朝鮮における歴史的建造物の保存と修理工事に関する研究  
－ 修徳寺大雄殿修理工事を中心として －

A Study on the Conservation and Repair Work of the Korean  
Historical Buildings in the Japanese Colonial Period  
Case Study on the Repair Work of Sudeok-sa' s Main Hall

申 請 者	
金	玟 淑
Kim	Minsuk

建築学専攻・建築史研究

2008 年 1 月

本研究は、韓国における歴史的建造物のあり方を再評価するために、その前提となる 20 世紀前半の植民地朝鮮における歴史的建造物の保存と修理工事を取り巻く諸状況を明らかにすることを、研究の目的とする。

本論文で事例として挙げている修徳寺大雄殿修理工事は、朝鮮総督府の小川敬吉技手が工事監督を務め、1937 年から 1940 年にかけて建物の調査及び全解体修理工事が行われ、その結果、建物の創建年代（高麗忠烈王 34（1308）年）が明らかになるとともに破風撤去と建具の変更などが行われ、現在の大雄殿の姿を整えるようになった。それ以前の修理としては朝鮮時代に行われた 1528 年の彩色補修、1751 年と 1770 年の補修、1803 年の大雄殿背面の飛檐垂木と破風改修などがあり、また 1930 年代以降の修理としては、一部の補修はあったものの、植民地時代の修理のような大規模な修理は行われていない。すなわち、この時期の工事は日本人の修理技術者の監督下で行われた近代的な解体修理工事であったにもかかわらず、当時の工事の詳細についてはあまり知られていないのが現状である。

また、修徳寺大雄殿は朝鮮総督府官房告知によって 1935 年に「宝物第 238 号」として指定され、1962 年に韓国政府によって「国宝第 49 号」と指定変更された。1900 年代初めごろの関野貞の韓国古建築調査ではこの建物が挙げられておらず、この建物が歴史的建造物として注目されはじめるのは 1930 年代以降のことである。その価値をはじめて見いだしたのも小川敬吉技手として知られており、小川は修徳寺大雄殿の建造物としての価値判断から保存修理工事に至るまで一貫して関わった人物である。小川は 1916 年に渡鮮して以来、1921 年に朝鮮総督府技手となり、1944 年まで朝鮮の古蹟調査及び保存事業、建築設計などの活動を行った人物でもある。

小川が蒐集した朝鮮古蹟調査関連資料（『小川敬吉資料』）は、現在、京都大学吉田建築系図書室と佐賀県立名護屋城博物館の 2 ヶ所に所蔵されており、本論文ではそれらの資料を主に利用した。近年に『修徳寺大雄殿－1937 年保存修理工事の記録－』（徳崇叢林修徳寺、2003）という出版物が刊行されたが、これは京都大学所蔵の『小川敬吉資料』のうち、修徳寺大雄殿工事関連資料を中心に解説を付け加えたものに過ぎず、佐賀県立名護屋城博物館所蔵の資料については紹介こそあるものの、内容については触れられていない。

上記のような研究背景をふまえた上で、本論文では、韓国歴史的建造物の保存修理工事の記録を通して、当時の日本国内の歴史的建造物保存修理の制度や手法が植民地朝鮮のそれに及ぼした影響、すなわち、適用段階における具体的な様相について考察した。また、佐賀県立名護屋城博物館が所蔵する新資料「宝物建造物修徳寺大雄殿工事報告」に初めて保存史学上の価値を与えるとともに、韓国の歴史的建造物保存において小川敬吉が果たした役割について考察を行った。

本論文の構成は、序論で研究の目的と意義、従来の研究、研究の範囲と方法に

ついて述べた後、本論 5 章と結論となっている。

本論の第 1 章「植民地朝鮮における歴史的建造物の保存制度の形成と変遷」では、「寺刹令」の施行（1911 年）から「古蹟及遺物保存規則」の制定（1916 年）を経て、「朝鮮宝物古蹟名勝天然記念物保存令」（1933 年）に至るまでの近代的な保存関連法令の整備について考察した。その結果、植民地朝鮮における歴史的建造物の保存関連法令は日本の法令をモデルとしており、類似している部分が多いが、単なる模倣ではなく、日本に先駆けた先進的な試みも行われたことが判明した。また、朝鮮総督府の古蹟調査及び保存事業関連の組織の形成とその改編についても考察を行った。その結果、最初の組織で見られる特徴は建築営繕にかかわる業務と歴史的建造物の修理が分離しないまま、実行された。しかし、1930 年代に行われた官制改訂をみると、調査・管理・保存の業務が朝鮮総督府学務局へ統合され、歴史的建造物の修理が完全に独立した領域として認識されたことが判る。

第 2 章「植民地朝鮮における歴史的建造物の保存修理工事とその記録」では、工事関連記録が残っている修理工事の事例を時代順に並べ整理し、その工事の特徴について考察した。また、ここに紹介する工事関連記録の多くは『小川敬吉資料』に所収されているもので、その中には「修理工事報告書」に当たるものが幾つかあるため、その構成内容についても考察を行った。修理工事報告書の最も早い事例は、1913 年の平壤普通門修理工事に関する報告の『大正 2 年度平壤普通門修理紀要』であり、1916 年～1919 年の浮石寺無量寿殿及び祖師堂の修理工事に関する記録が「浮石寺保存工事施業功程」として残っていることが判明した。この二つの資料は工事監督の木子智隆によって作成されたものである。1919 年の金提金山寺修理工事の記録としては『金山寺観跡図譜』という出版物があるが、工事の概要に関する概略と工事後の写真が主で、工事報告書というより、写真集に近い。一方、1933 年以降になると、修理工事の概要だけでなく、調査事項などの詳細項目が増えることがわかる。この時期の修理工事報告として知られているのは「宝物成仏寺応真殿工事調書」である。以上のことをふまえた上で結論づけると、1913 年から 1945 年の修理に至るまで植民地朝鮮では修理工事報告はその体裁が整っておらず、建物の概要や写真・図面を中心に作成されたものもあるが、浮石寺や成仏寺応真殿の工事報告は他の報告よりその内容が充実していることがわかる。

第 3 章「1933 年以降における宝物建造物の保存及び修理工事」では、「朝鮮宝物古蹟名勝天然記念物保存令」（1933 年）の制定後の修理工事のあり方について考察した。その結果、1933 年以降の修理工事においては、「宝物建造物修理施行準則」という工事執行に関する規定があり、日本の「国宝保存法」時代の「国宝建造物修理施行準則」になぞって作られたことが判明した。また、『小川敬吉資料』には「修徳寺大雄殿修理工事取扱手続」（附則には、昭和 12 年 2 月 26 日より施行と記載）と「宝物建造物長安寺四聖殿保存修理工事取扱手続」（附則には、昭和

13年2月<sup>マ</sup>日より施行と記載)という2件の文書が所収されており、各修理事業ごとに工事執行に関する必要事項の規定を定めたことが判った。その規定内容は2件とも職制や庶務及び会計に関する事項で、特に、工事竣成後には「破損及構造ノ調査書、修理工事経過ノ詳細、実施仕様書、精算書、修理前実測図各種仕事図及修理竣工図、摺拓本及模型、修理前写真、資料写真及修理竣工写真」を備え、提出することが求められていることが判明した。

第4章『小川敬吉資料』からみる修徳寺大雄殿の修理工事(1937～1940年)」では、新出資料「修徳寺大雄殿修理報告」を紹介するとともに、修徳寺大雄殿が全解体工事に至るまでの経緯や、工事担当者、工事日程、その工事内容、修理方針などについて分析し、考察を行った。その結果、修徳寺大雄殿修理工事は歴史的建造物の保存修理工事に関する考え方や修理方針がある程度整った1933年以降に実施された工事であったため、学術的な調査を伴う解体修理工事が図られ、建築技術などに関する考察が積極的に行われたことが判った。また、修理方針としては当時の日本と同様に原形への復旧を目指す一方、在来の工法の踏襲、同種・同質の材料の利用、部材の再利用、修補年号の燈印などが原則として守られた。また古色塗をし、材料の風化による「古風」を出し、建物の審美的な面を重要視したことがわかる。また、学術調査では柱内転び、柱隅伸び、糸巻型平面、日本の和様・唐様・天竺様の手法が混在した手法を発見し、その形式手法を再現することに重点をおいたこともわかる。以上のことをふまえた上で結論づけると、修徳寺大雄殿修理工事は単に損傷した部分を修理するだけでなく、韓国木造建築の細部の構造技法について究明しようとする小川敬吉の修理への姿勢が窺えるものである。

第5章「韓国歴史的建造物の保存修理事業における朝鮮総督府技手小川敬吉の役割」では、まず、小川敬吉の履歴について考察を行った。小川については朝鮮総督府の技手であったということと『小川敬吉資料』の存在しか知られておらず、韓国の歴史的建造物の保存史において語られることはなかった。しかし、『小川敬吉資料』の資料としての価値や本論文の本論第1章から第4章までの内容をふまえると小川に対する評価は再考する必要がある、それについて考察した。

結論では、これまでの考察をふまえて本論文の成果を総括的に展開している。まず本論で扱った各章の内容の相互関係を示すことで、本論文の全体象を示した。歴史的建造物の保存と修理工事は当時代の政治的・経済的・社会的な諸状況によって左右されることは間違いない。行政的な保存制度の整備や改編はそれを代弁するものである。しかし、歴史的建造物の修理工事においては修理技術者の修理経験や知識、保存に関する考え方または信念などによって左右される部分もあるのではないかというのが本論文の研究背景であり、実際、小川敬吉技手が携わった修徳寺大雄殿工事の資料を分析することでそれを明らかにした。

## 早稲田大学 博士（建築学） 学位申請 研究業績書

氏名 金 玟 淑 印

(2007 年 12月 現在)

種 類 別	題名、 発表・発行掲載誌名、 発表・発行年月、 連名者（申請者含む）
○論 文	修徳寺大雄殿修理工事における修理のあり方と修理方針－「朝鮮宝物古蹟名勝天然記念物保存令」における宝物建造物の保存及び修理工事－、日本建築学会計画系論文集、No. 622、245-251、2007 年 12 月、金玟淑
○論 文	日帝強占期における歴史的建造物保存修理工事の記録について－日本佐賀県立名護屋城博物館所蔵小川敬吉資料を中心として－、韓国建築歴史学会 2007 秋季学術発表大会資料集、147-154、2007 年 11 月、金玟淑
○論 文	1937-1940 年の修徳寺大雄殿の修理工事について、2007 年度日本建築学会大会学術講演梗概集、F-2、359-360、2007 年 8 月、金玟淑
○論 文	朝鮮総督府技手小川敬吉の朝鮮古蹟保存事業における役割について、2006 年度（第 77 回）日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ、361-364、2007 年 3 月、金玟淑
○論 文	A Study on the Conservation and Repair Work of the Main Hall of the Korean Buddhist Temple Sudeok-sa in the Japanese Colonial Period, <i>Reassessing East Asia in the Light of Urban and Architectural History, Vol. II</i> , 101-106, 2006 年 12 月、Minsuk Kim
○論 文	建築史家関野貞の韓国歴史的建造物の調査・保存について、2005 年度日本建築学会大会学術講演梗概集、F-2、405-406、2005 年 9 月、金玟淑
その他 (論文)	宗像大社の三宮構成の性格について、2006 年度（第 77 回）日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ、261-264、2007 年 3 月、米澤貴紀・中川武・金玟淑
その他 (報告書)	平成 18 年度東京都墨田区照田家住宅実測調査報告書、墨田区教育委員会、2006 年 11 月、写真担当
その他 (報告書)	日韓交流史から捉えた玄界灘における政治・文化・礼拝ネットワーク－韓半島と壱岐・対馬・沖ノ島・宗像大社の関係性－、早稲田大学建築史研究室、2006 年 10 月

## 早稲田大学 博士（建築学） 学位申請 研究業績書

種 類 別	題名、 発表・発行掲載誌名、 発表・発行年月、 連名者（申請者含む）
その他 (論文)	A Network of Politics, Culture and Worship on Genkainada (玄界灘)(1), <i>A+T : Neo-Value in Asian Architecture</i> , Vol.1, The 6 <sup>th</sup> International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, 368-371, 2006 年 10 月, Takeshi Nakagawa, Minsuk Kim, Takanori Yonezawa and Nozomi Tamura
その他 (論文)	A Network of Politics, Culture and Worship on Genkainada (玄界灘)(2), <i>A+T : Neo-Value in Asian Architecture</i> , Vol.1, The 6 <sup>th</sup> International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, 372-377, 2006 年 10 月, Minsuk Kim, Takeshi Nakagawa, Takanori Yonezawa and Nozomi Tamura
その他 (論文)	A Network of Politics, Culture and Worship on Genkainada (玄界灘)(3), <i>A+T : Neo-Value in Asian Architecture</i> , Vol.1, The 6 <sup>th</sup> International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, 378-383, 2006 年 10 月, Takanori Yonezawa, Takeshi Nakagawa, Minsuk Kim and Nozomi Tamura
その他 (論文)	A Network of Politics, Culture and Worship on Genkainada (玄界灘)(4)”, <i>A+T : Neo-Value in Asian Architecture</i> , Vol.1, The 6 <sup>th</sup> International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, 384-389, 2006 年 10 月, Nozomi Tamura, Takeshi Nakagawa, Minsuk Kim and Takanori Yonezawa
その他 (出版物)	Seminar Review   日韓における文化財建造物保存の興隆と展開、月刊建築文化、No. 304、158-161、2006 年 9 月、金玟淑
その他 (論文)	海神を祀る神社の祭神の性格と立地条件の関係ー壱岐の式内社についてー、2006 年度日本建築学会大会学術講演梗概集、F-2、61-62、2006 年 9 月、米澤貴紀・中川武・坂本忠規・金玟淑
その他 (論文)	文献から見る新羅の海神祭及び祭場の立地条件について、2006 年度日本建築学会大会学術講演梗概集、F-2、297-298、2006 年 9 月、金玟淑・中川武・坂本忠規・米澤貴紀
その他 (出版物)	Exhibition Review   「杉本博司：時間の終わり」展、月刊建築文化、No. 296、181-183、2006 年 1 月、金玟淑
その他 (論文)	ユネスコ世界遺産リスト登録への日本の活動に関する考察ー「紀伊山地の霊場と参詣道」と「海の正倉院ー沖ノ島」ー、2005 年度日本建築学会大会学術講演梗概集、F-2、409-410、2005 年 9 月、高橋明子・金玟淑・坂本忠規・中川武

## 早稲田大学 博士（建築学） 学位申請 研究業績書

種 類 別	題名、 発表・発行掲載誌名、 発表・発行年月、 連名者（申請者含む）
その他 （報告書）	平成 17 年度祐天寺建築物文化財調査報告書－本堂・書院・地藏堂－、目黒区教育委員会、2005 年 8 月
その他 （出版物）	植民・脱植民の光と影：関野貞アジア踏査－平等院・法隆寺から高句麗古墳壁画へ－、月刊建築文化、No. 291、174-176、2005 年 8 月、金玟淑（雑誌記事）
その他 （出版物）	文化遺産としてのモダニズム建築－DOCOMOMO100 選展、月刊建築文化、No. 288、166-168、2005 年 5 月、金玟淑（雑誌記事）
その他 （報告書）	平成 15 年度目黒区近代建築物個別調査報告書－近代の住宅を中心に－、目黒区教育委員会、2004 年 3
その他 （論文）	華嚴一載乘法界図に表した華嚴思想の建築空間の具現に関する研究、韓国：弘益大学校大学院、1999 年 12 月、金玟淑（修士論文）
その他 （論文）	韓国寺刹の殿閣生成に関する研究、' 99 春季学術発表大会論文集、Vol. 19、No. 1、295-300、1999 年 3 月、金玟淑・朴彦坤

